

授業科目 医療統計学

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2～3	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	前期	必修・選択	2必・3選・2必・3必・2選
	単位数	1	時間数	15

<概要> 医療統計学という、厳密な概念はない。ただし、保健・医療分野で応用される統計学は、他とは異なり独特の用語や定義を用いている。したがって、それらの概念や用法を適用することは、保健・医療の専門家にとって不可欠であるために、一部の学科では必修になっている。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎について学習する。

<一般目標：GIO>

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

<行動目標：SBO>

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学調査における前向き・後ろ向き調査方法の利点と欠点を区別できる。
3. 正しい統計学的な検定方法を選択できる
4. レポートを書く際に、修得した統計学的検定方法を適用できる。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO
			番号 学習方法・学習課題
1	記述疫学	記述疫学の調査方法、まとめ方と評価方法について学ぶ。	1 講義
2	分析疫学	分析疫学の調査方法、まとめ方、記述疫学との違いを学ぶ。	2 講義
3	疫学調査の各種指標	疫学調査で用いる各種統計指標を学び、統計学的に評価してみる。	3 講義と演習
4	粗率と訂正率	人口構成その他の違いによる率の調整方法を学び、SMR (Standardized Mortality Ratio、標準化死亡比)を計算してみる。	3,4 講義と演習
5	罹患率と有病率	罹患率、有病率、人年法など保健・医療分野独自の率について学ぶ。	3,4 講義と演習
6	敏感度と特異度	スクリーニング検査における各種手法とその評価方法を学ぶ。	3,4 講義と演習
7	生命表と生存分析	治療成績の比較の際によく用いられる、生存分析を適用するために、基礎となる生命表関数やその評価方法を学んで生存率を計算する。	3,4 講義と演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷、¥2500+税
参考書				
その他の資料	毎回レジュメを配布する予定である。専門用語を穴埋めしていくとサブ・ノートが出来上がることになり、それを「医療統計学演習」のサブ・テキストとして使用する。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 途中から数回レポートを提出してもらう。 2. レポートのみでは理解度が不明なので、試験期間中に小テストを実施する。	1. 1年時の「数理科学概論」と同じテキストを用いる。 2. 「医療統計学」のみの履修は認められるが、「同演習」のみの履修は認められない。もちろん、両方履修の方が望ましい。

全科共通科目 医療福祉